

イチゴ促成栽培用品種「もういっこ」

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

本県のイチゴ生産は「とちおとめ」,「さちのか」を利用した促成栽培が主であるが,「とちおとめ」は不授精果やうどんこ病,萎黄病,ハダニの発生,「さちのか」では春先の小果実の多発やうどんこ病ハダニの発生が産地の大きな問題となっている。また,全国のイチゴ産地で品種の重要性が高まる中,本県でも寒冷地の気象条件に適応したオリジナル品種の育成が切望されていた。

そこで,本県の気象条件に適応し,冬期の草勢が強く,大果・果重型で,「とちおとめ」,「さちのか」と同等,または優る収量が確保でき,良質の果実形質を有した品種「もういっこ」を育成したので普及技術とする。

2 普及技術

1) 「もういっこ」はうどんこ病,萎黄病に抵抗性を有する宮城オリジナル母本の「MN3」{(女峰×しずたから)×女峰}を子房親とし,果実品質が優れる「さちのか」を花粉親として1995年に組み合わせ交配を行い,個体選抜,系統選抜及び現地適応性の検討の結果選抜された系統である。

2) 「もういっこ」は冬期の草勢が強く,促成栽培に適し,1果房当たりの着花数は少ないが,商品果平均1果重は16.3gと大果・果重型品種で,連続出蕾性が高い(表1,2)。

収量は「さちのか」より優り,「とちおとめ」と同程度~優り,商品化率果重割合が高い(表2)。

3) 果実糖度は「女峰」並の9.0%程度で「とちおとめ」,「さちのか」よりやや低いが,糖酸比は15.0と高いため食味は良好で,果実の揃いも良い。また硬度は「さちのか」と同程度と高い(表3)。

4) うどんこ病に対しては,「とちおとめ」より強い(表4)。

5) 対象地域等
・ 県下一円

3 利活用の留意点

1) 品種登録は19年度になる見込みである。

2) 多肥条件で栽培すると果実に縦溝ができやすいので注意する。

3) 「とちおとめ」よりうどんこ病に強いが,防除は必要である。

(問い合わせ先: 農業・園芸総合研究所園芸栽培部 電話022-383-8132)

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間 みやぎオリジナル品種育成 平成11年～
- 2) 参考データ

表1 開花期の生育状況

2003年11月13日

品種名	草高 (cm)	葉数 (枚)	第3葉(mm)			頂果房 着花数 (個)	頂果 房長 (cm)	第1次 腋果房 着花数 (個)
			葉身長	葉幅	葉柄長			
もういっこ	25.0	7.4	95	73	136	14.3	34.1	11.7
女峰	21.1	7.7	96	73	107	21.5	32.5	14.0
とちおとめ	22.1	9.5	107	90	120	17.2	29.7	13.8
さちのか	22.0	8.1	104	81	136	16.9	28.7	12.7

表1, 表2は35穴セル成形成苗普通促成栽培での調査データで, 定植は9月上旬, 加温は11月1日より8日 で加温した。電照は11月上旬開始, 収穫開始は11月下旬からである。

注) 頂果房着花数, 頂果房長は2004年1月19日調査。第1次腋果房着花数は2004年3月3日調査。

表2 月別商品果収量

2004年度

品種名	11月		12月		1月		2月		3月	
	商品果 収量 (kg/a)	平均1果 重(g)								
もういっこ	6	29.0	57	22.0	107	18.3	97	16.5	96	15.3
女峰	9	19.2	63	13.7	87	13.3	73	13.5	57	13.0
とちおとめ	13	17.8	64	13.0	75	16.3	66	14.8	86	15.3
さちのか	2	24.3	66	16.7	74	13.1	60	12.6	62	12.9

品種名	4月		5月		月別合計			商品化率 (%)
	商品果 収量 (kg/a)	平均1果 重(g)	商品果 収量 (kg/a)	平均1果 重(g)	商品果 収量 (kg/a)	商品果 平均1果 重(g)	総果平 均1果重 (g)	
もういっこ	125	15.9	61	12.8	549	16.3	14.4	93
女峰	147	12.1	88	11.9	524	12.8	10.6	86
とちおとめ	146	14.7	75	14.7	525	14.9	13.0	92
さちのか	137	11.4	39	9.5	440	12.5	10.4	89

注) 商品果は6g以上の正形果, 8g以上の可販果。

表3 品種別果実品質と果実評価

2003年度

品種名	糖度(%)	酸度(%)	硬度(gf)	糖酸比	果形	果皮色	光沢	香気	果実揃い	空洞
もういっこ	9.0	0.600	164	15.0	円錐	鮮赤	中	中	良	極小
女峰	9.0	0.734	108	12.3	円錐	鮮紅	良	中	中	なし
とちおとめ	10.0	0.693	147	14.4	円錐	鮮赤	良	中	良	なし
さちのか	9.9	0.709	167	14.0	円錐	鮮紅	良	優	良	極小

注) 糖度 brix 指示値, 2月, 3月各2回づつ測定 of 平均値。酸度は滴定酸度, クエン酸換算値。硬度は(株)山電社製3mm 円柱貫入抵抗値。

表4 うどんこ病罹病調査

(2004年11月26日調査)

供試品種	調査株数	発病小葉率(%)	発病度
もういっこ	34	30.1	7.7
とちおとめ	49	65.5	23.1

調査方法：上位3複葉(9小葉)について、発病の有無を程度別に調査

0：病斑なし 1：病斑面積が小葉面積の5%未満

2：病斑面積が小葉面積の5%～25%未満 3：病斑面積が小葉面積の25%～50%未満

4：病斑面積が小葉面積の50%以上

発病度 = (程度別発病小葉数 × 発病指数) × 100 / (調査小葉数 × 4)



写真1 「もういっこ」の着果状況



写真2 収穫期の「もういっこ」生育状況



写真3 「もういっこ」の果実



写真4 「もういっこ」果実

3) 発表論文等

園芸学会平成17年度秋季大会

平成17年度東北農業試験研究成果情報

平成17年度宮城県農業・園芸総合研究所研究報告